資料探しから、見積の前提づくりへ。

散らばる資料から、見積の土台を、一緒に。

見積の準備をAIが支え、技術者の判断へつなぐ。
シーケンス制御・制御盤のための「設計前見積」。



利用イメージ

01　困りごと

資料が散らばり、条件確認・拾い出しが煩雑。

仕様書・図面・メーカー資料・過去見積

→

02　AIの支援

設計の前に、見積諸元を整理。

資料に含まれる仕様・条件を整理

→

03　人の判断

技術者が確かめて、見積書へ。

確認・修正し、最終的な内容を人が判断

01 / 見積の前にある困りごと

「あの条件、どの資料にあった？」

仕様書と図面を行き来する。メーカー資料や過去見積と照合する。
散らばる資料から必要な情報を拾い、足りない条件を見つける。
その準備をAIが支援し、技術者が確認・判断して見積書へつなぎます。

設計の前に、前提を整える。

まずは、見積を考えるための情報整理。

詳細設計に先立ち、手元の資料から見積に必要な諸元や条件を整理する考え方です。見積条件の妥当性と最終的な内容は、人が判断します。

設計前の見積検討　→　詳細設計　→　製作・実装

支援対象は設計前の見積検討です。工程はイメージであり、案件の条件により異なります。

02 / AIによる情報整理

散らばる資料を、見積に使える情報へ。

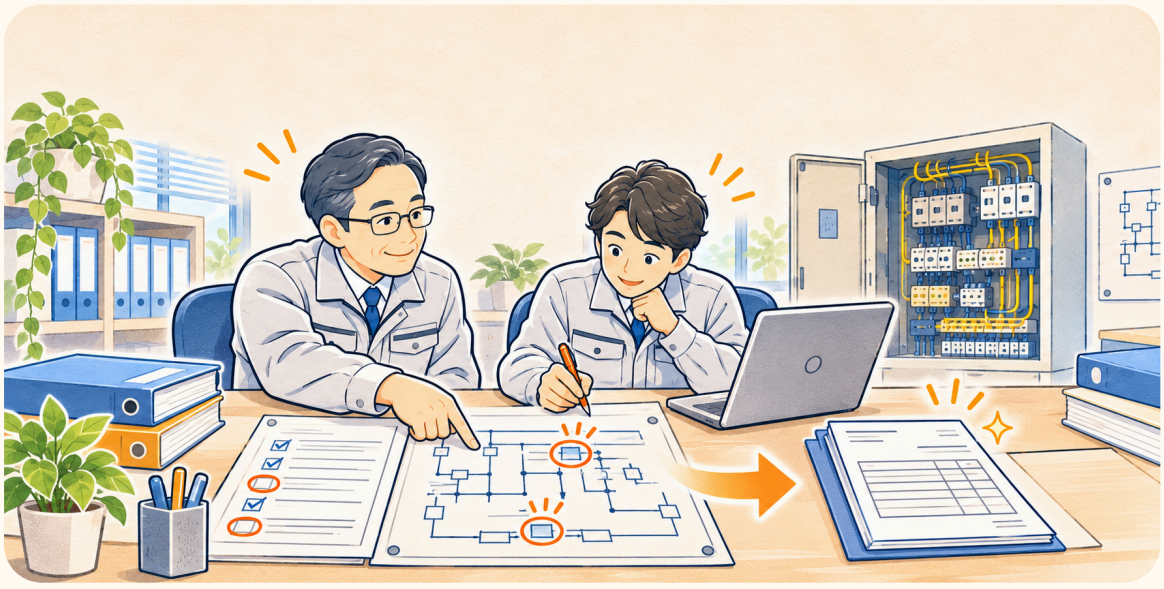


利用イメージ

仕様書・図面・PDF・Excel・メーカー資料・過去見積。
手元の資料から、見積に必要な諸元や条件の整理をAIが支援します。

03 / 技術者の確認から見積へ

技術者が確かめて、見積書へ。



利用イメージ

元の資料と照らし合わせ、妥当性や不足する条件を確認。
必要な修正・追加確認を行い、確かめた条件を見積書の作成につなげます。

見積の最終判断は、技術者が行います。
AIによる整理内容は、技術者の確認・修正を経て使用します。

正式事業計画名：AI活用型シーケンス制御・制御盤向け見積システムの開発及び販売事業